

## ◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

### 1. 瀬戸蔵ミュージアム (<https://www.seto-cul.jp/information/index.php?s=1773283929>)

3月14日(土)～6月14日(日)

企画展「天草のやきもの」

瀬戸蔵ミュージアムでは、企画展「天草のやきもの」を開催します。天草は陶石だけではなく陶土にも恵まれ、17世紀頃から陶磁器が生産されてきました。現在もひとつのスタイルにとらわれることなく、それぞれの窯元で、その特徴を活かしたやきものづくりが行われています。本展では、天草陶磁器の島づくり協議会加盟の窯元12軒で制作された作品を展示します。陶器そして磁器の様々なジャンルの作品を展示し、「現在の天草のやきもの」を紹介します。



### 2. 大阪市立東洋陶磁美術館【大阪・北区】(<https://www.moco.or.jp/exhibition/current/?e=659>)

4月11日(土)～8月2日(日)

特別展 コレクションオムニバス ―初公開・久々の公開― PART 2

当館は、旧安宅産業株式会社が収集した世界屈指の中国・韓国陶磁コレクションである、「安宅コレクション」965件を住友グループから寄贈されたことを記念して、1982年11月に開館しました。また、1996年から1998年にかけて、李秉昌(イ・ビョンチャン)博士から韓国陶磁を中心とするコレクション351件の寄贈を受けました。実は、これらの核となるコレクション以外にも、開館以来40年余の間に、篤志家(とくしか)の方々から様々なコレクションが当館に寄贈され、収蔵品の質と量が



拡充されてきました。本展では、ほとんどが初公開となる茶道具を中心とした「松恵(しょうけい)コレクション」のうち、PART1で紹介しきれなかった作品や、久々の公開となる輸出用の古伊万里コレクション、民藝運動を主導した陶芸家濱田庄司(はまだしょうじ)の作品を中心に、明時代に中国の景德鎮窯で日本向けにつくられた「古染付(こぞめつけ)」などを含む「堀尾幹雄(ほりおみきお)コレクション」、朝鮮時代につくられた文房具のひとつである水滴のコレクションを、オムニバス方式で紹介します。

### 3. 愛知県陶磁美術館【愛知・瀬戸】(<https://www.artagenda.jp/exhibition/detail/12068>)

5月30日～9月27日(日)

特別展 巨匠ハインツ・ヴェルナーの描いた物語 ―現代マイセンの陶器芸術―

本展では、現代マイセンを代表する《アラビアンナイト》《サマーナイト》《ブルーオーキッド》などのシリーズを生み出した巨匠ハインツ・ヴェルナー(1928-2019)の作品を紹介します。ヴェルナーはドレスデン芸術アカデミーの分校として1764年に設立されたマイセン養成学校で絵付けを学び、後に様々な名作のデザインを手掛けました。ヴェルナーがデザインを手がけた多彩なサービスウェアの数々、プラーク(陶板画)などの作品を通して、その魅力を体感してください。また、ヴェルナー自身が残した「日本は第二の故郷」という言葉のとおり、大変な親日家としても知られ、芸術的表現において日本にちなんだデザインを生み出すなど日本との関わりも深い人物です。本展は、巨匠ハインツ・ヴェルナーに焦点を当てた初の展覧会となります。ヴェルナーが創作した名作を中心に、現代マイセンの美しき磁器芸術を紹介します。

